

「司馬遼太郎記念館への誘い」に参加して

会員 長岡 和子(三井住友海上OG)

三井V-Net関西サロン特別企画に初めて参加させていただきました。



左が筆者

4月25日、爽やかなお天気のもと総勢19名の参加者の皆さんと、河内小阪駅から記念館へ向かう途中の公園入口に「21世紀に生きる君たちへ」の石碑があります。このメッセージで学んだ子供達はどんな大人に成長しているだろうかと考えるうち緑豊かな正門に到着しました。正門から記念館に通じる小径は何とも気持ちの良い小径です。

まず、上村洋行館長から司馬作品や記念館設立前後のお話を伺いましたが、特にこの記念館は「展示を見るのではなく、感じて欲しい。感じる記念館と共にコミュニケーションの場でもある」と。また、記念館活動は文化の灯を保つために発信。経済は文化と一緒に発展しなければならない」とのお話が強く心に残りました。



館内の地下1階から地上2階

まで吹き抜けの大書架には只々圧倒されます。パンフレットでは見たことがありましたが、現物を前にするとやはりすごい迫力です。これでも蔵書の一部2万冊の著書・資料しか展示されておらず、全蔵書は6万冊に及ぶと聞いてもその数は想像すら出来ません。地下1階に降り天を仰ぐと、書籍はまるで森の木のように何かを語りかけているようでした。

その後ホールで映画を鑑賞したり、館内を巡ったりしながら…司馬さんの本、特に歴史小説はこの記念館の大書架にも入りきれない膨大な資料・書籍を読み込まれて生み出されたのだと思うと、今まで読まなかったことが何と勿体ないこととつくづく思い知らされた一日でした。

帰りに、あの気持ちの良い小径で樹木や花木を眺めていると、ボランティアの方が「この花はマンサクです」「あの新芽が出ている木は柏です。古い葉は新芽が出てから落ちるんですよ」と親切に教えて下さったのがいつまでも頭から離れませんでした。

柏の葉は葉っぱが枯れても枝に残って木を守り、春に新芽が生まれるのを待つて落ちる…まるで司馬さんそのもののようで、司馬さんは21世紀に生きる君たちへのメッセージが確実に子供達に届いたのを見届けて逝かれたのでしょうか…。